

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Analysis of non-respondent pregnant women who were registered in the Japan Environment and Children's Study: a longitudinal cohort study

和文タイトル: 妊娠期女性における質問票未回収に関する検討; エコチル調査参加者を対象に

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2019 月: 6 巻: 9 頁: e025562

筆頭著者名: 城川美佳

所属UC名: 富山UC

目的:

妊娠期女性を対象とした質問票調査において、回答未回収に関連する要因を検討した。

方法:

エコチル調査第1次一部固定データを使用し、参加同意した妊娠期女性のうちリクルート初年次に出産した女性を対象に、妊娠中後期に実施した質問票調査の回収状況と、既往歴、家族との同居状況、パートナーの参加状況、協力医療機関への受診状況、健康状態、勤務形態との関連を単変量解析にて検討し、有意な結果が得られた要因を用いて、多重ロジスティック回帰分析にて関連を検討した。

結果:

義母との同居(OR:0.47)、パートナーの積極的参加(OR:0.25)、協力医療機関への複数回受診(OR:0.02)は、有意に未回収の減少に関連していた。また、アレルギー性鼻炎の既往あり、体の痛みがある、妊娠前期での飲酒ありは回収と有意に関連していた(OR:0.68、0.96、0.36)。他方、妊娠前期での受動喫煙ありは有意に未回収増加と関連していた。

考察:(研究の限界を含める)

教育歴・年収等の社会経済状況、パートナーのエコチル調査協力同意状況、妊娠中後期質問票の回収方法は、先行研究において質問票未回収と関連があることが見られているが、本研究で使用したデータセットにはこれらのデータが記載されていないため、結果に影響している可能性がある。しかしながら、過去の知見にある、調査研究仮説と関連する要因や健康関連行動の状況、および研究協力医療者との連携と、質問票の回収/未回収との関連が本研究でも見られた。また、同居者やパートナー等の周囲の者の存在が、質問票の回収/未回収と関連していることが見られた。

結論:

本研究は、参加者の周囲に者から研究目的の理解を得ることによって、より高い回収率を得られることの可能性を示唆している。なお、本研究は日本居住者を対象としており、日本の文化や社会経済状況の異なる地域での状況と異なる可能性がある。